

強度近視性黄斑円孔網膜剥離に対する自家網膜移植の有効性の検討

1. 研究の対象

当院を受診し、眼軸長が28mm以上で、年齢が50歳～80歳の黄斑円孔網膜剥離の患者。網膜剥離の範囲は黄斑部を越えているものとする。再手術例も含む。

2. 研究目的・方法

目的：強度近視性黄斑円孔網膜剥離に対する自家網膜移植術の有効性を判定し、今後の黄斑円孔網膜剥離に対する最良の治療法を見極める。

方法：介入を伴う前向き研究(前向き観察研究)

強度近視性黄斑円孔網膜剥離の症例に対して、周辺部の剥離網膜から自家網膜移植片を切り取り、それを黄斑円孔へ埋め込むことにより円孔閉鎖と網膜剥離の復位を達成する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

強度近視性黄斑円孔網膜剥離の患者の術前および術後の視力、眼圧、前眼部写真、眼底写真、網膜断層像写真を記録し、また術後の黄斑部マイクロ中心視野を計測し、その変化を記録していく。

4. 目標症例数と研究期間

目標登録症例数 10例

研究期間

登録期間；2017年10月～2020年3月

追跡期間；2年間

5. エンドポイント(評価項目)の定義

主要評価項目(Primary Endpoint)：網膜復位、黄斑円孔閉鎖

副次的評価項目(Secundary Endpoint)：合併症の有無